

平成30年度  
一級建築施工管理技士  
(実地試験)

問1、問2 解答参考例

## 問題1

建設業においては、高度成長期に大量に建設された建築物の更新や解体工事に伴う建設副産物の発生量の増加が想定されることから、建設副産物対策への更なる取組みが求められている。

あなたが経験した**建築工事**のうち、施工に当たり**建設副産物対策**を施工計画の段階から検討し実施した工事を**1つ**選び、工事概要を具体的に記入したうえで、次の1. 及び2. の問いに答えなさい。

なお、**建築工事**とは、建築基準法に定める建築物に係る工事とし、建築設備工事を除くものとする。

〔工事概要〕

- イ. 工事名
- ロ. 工事場所
- ハ. 工事の内容（新築等の場合：建築用途、構造、階数、延べ面積又は施工数量  
主な外部仕上げ、主要室の内部仕上げ）  
（改修等の場合：建物規模、主な改修内容、施工数量又は施工数量）
- ニ. 工期（年号又は西暦で年月まで記入）
- ホ. あなたの立場

概要については平成18年度からはほぼ同じ設問形式なので省略致します。

『平成18年度実地試験解答参考例』及び『経験記述のポイントテクニック集』を御参照ください。

1. 工事概要であげた工事において、あなたが実施した建設副産物に係る**3つ**の事例あげ、それぞれの事例について、次の①から④を具体的に記述しなさい。  
ただし、3つの事例の③及び④は、それぞれ異なる内容の記述とする。  
なお、ここでいう①建設副産物対策は、**発生抑制**、**再利用**又は**再生利用**とし、重複して選択してもよい。

- ① 建設副産物対策
- ② 工種名等
- ③ 対策として**実施したこと**と**実施に当たっての留意事項**
- ④ 実施したことによって得られた**副次的効果**

（平成21・24・27年度の実地試験解答例 問題1 応用）

## 解答例

### 【1】

①発生抑制

②型枠工事。

③基礎に使う合板（パネル）型枠をラス型枠に変えて、加工にともなう残材の発生を抑制した。変更にあたっては元請けの技術責任者と十分に検討した。

④残材発生を抑制した結果、処分費用の削減が図れた。

## 【2】

- ①再使用。
- ②土工事。
- ③掘削工事の発生土は、他の基礎工事の現場で流用した。ただし、含水比及び粒度調整は入念に行った。
- ④発生土の有効利用により、調達・処分等の手間がなくなり合理化を図れた。

## 【3】

- ①再生利用。
- ②内装工事。
- ③内装工事で発生したせっこうボード類の残材は、雨に濡れないように保管をして、再生利用のためにメーカーに引き取りを依頼した。
- ④再生利用を促進でき、目的のリサイクル目標を達成できた。

2. 工事概要にあげた工事にかかわらず、あなたの今日までの工事経験に照らして、1. で記述した内容以外の建設副産物対策として、建設廃棄物の**適正な処理**の事例を**2つ**あげ、対策として**実施したこと**と、それらを適切に実施するための**留意事項**を具体的に記述しなさい。2つの事例は異なる内容の記述とする。

## 解答例

### 【杭地業工事で発生した汚泥(ベントナイト溶液)】

#### ①実施したこと

自然環境への影響を防ぐため、マニフェストを発行し、許可業者に処分を委託した。

#### ②留意事項

最終処分までの履歴等の確認も行うこと。

### 【解体現場からの廃プラスチック類】

#### ①実施したこと

環境への負荷が比較的小さいため、収集運搬は自らが行き「安定型処分場」への最終処分を行った。

#### ②留意事項

飛散・流出防止に努め、生活環境維持の保全に努めた。

## 問題2

建築工事における次の1. から3. の災害について、施工計画に当たり事前に検討した災害の発生するおそれのある**状況や作業の内容**と災害を防止するための**対策**を、**それぞれ2つ**具体的に記述しなさい。

ただし、解答はそれぞれ異なる内容の記述とする。また、安全帯や保護帽の使用、朝礼時の注意喚起、点検や整備などの日常管理、安全衛生管理組織、新規入場者教育、資格や免許に関する記述は除くものとする。

1. 墜落、転落による災害
2. 電気による災害
3. 車両系建設機械による災害

### 解答例

#### 1. 墜落、転落による災害

【作業及び状況】 外壁タイル張り作業中における足場からの墜落

対策① 幅40センチ以上の作業床を設置して、開口部には囲い、覆い、手すりを設ける。

対策② 上下作業を禁止して、防網を設け、悪天候時には作業を中止する。

#### 2. 電気による災害

【作業及び状況】 鉄骨工事における交流アーク溶接機使用時の感電事故

対策① 使用前の安全点検にて、自動電撃防止装置の作動状況を確認する。

対策② 溶接用ケーブル等の被覆の損傷や劣化の有無の確認を行う。

#### 3. 車両系建設機械による災害

【作業及び状況】 バックホウによる掘削作業中に、後ろにいた作業員が機械に接触、巻き込まれる。

対策① 重機周辺を立入禁止区域とする。

対策② 一定の合図を定め、誘導員を専任してその者に誘導させる。